感情表現の日英比較
―〈快〉感情基礎語彙を中心に―

清　海　節　子

1．はじめに

日常何気なく使用する感情表現である「うれしい」や「悲しい」等は，言語間ではどの程度の普遍性が認められるのだろうか。例えば，「私は幸せだ」と“I am happy”は，当然のように同等に扱われているが，これは正しいと言えるのだろうか。本稿は，感情表現の中で，〈快〉に分類される基礎語彙[1)]に限って，日本語と英語での違いを探る試みをする。方法論としては，先行研究を詳細に検討することで，語彙の意味を十分に理解した後，日英間で比較し，相違点を明らかにする。結論として言えることは，日本語と英語の基本的な〈快〉感情語彙は，同じ要素を共有しているが，厳密には，一対一として対応していないということである。

本稿の構成は次の通りである。第2節では，語彙について検討する前に，寺村（1982）の日本語感情表現についての文法研究が紹介される。続いて，英語と日本語における感情語彙の文法的特徴を考察する。第3節では，日本語の「ウレシイ」と「タノシイ」の相違についての先行研究（西尾（1993），山田（1982），菊地（2000））を紹介した後，これら2語がどのような英語語彙でいかに表現されうるか考察する。次の4節では，Wierzbicka（1999）による英語の感情基礎語彙の分析を検討し，日本語と対比することで，意味の差を把握する。最後の5節では結論が述べられる。

2．日本語の感情表現についての文法的研究

この節では，感情表現を文法的側面から簡潔に日英比較していく。ここでは，寺村（1982）の日本語における文法研究を紹介する。同時に英語との違いにも注目しながら，〈快〉の感情表現における文法的特徴について考える。

2.1　寺村（1982）

寺村（1982：139）は，感情の表現は，動的事象の客観的な描写と，事物の性状

規定との中間に位置すると述べている。日本語の感情表現は，述語が動詞であるものと，形容詞であるものの二つに分類できる[2)]。例えば，「驚く，失望する，喜ぶ，悲しむ」と「悲しい，怖い，恐ろしい，嘆かわしい」という区別である。寺村によると，主に動詞表現は，顔が赤らむとか，微笑むなど表情の変化のような外面的観察が可能であることから，外界の動的事象を客観的に描く機能を果たし，感情形容詞は，その反対の側面である対象の一般的属性を規定すると考えられる。

さらに寺村は，感情表現の動詞を統語的特徴から，形容詞は意味的な違いから，それぞれ2種類に下位分類している。動詞については，補語の違いから次の2つのタイプに分けている。

(1)　○『～ニ』タイプ……補語が感情の動きの誘因を表す
　　例：「そのニュースに驚く」「結果にがっかりする」
　　○『～ヲ』タイプ……補語が感情の向かう対象を表す
　　例：「ピクニックを楽しむ」「将来を心配する」

換言すると，『～ニ』タイプの動詞（例：驚く，びっくりする，安心する，失望する）の意味は，感情そのものを表すというより，何らかの出来事が引き金になって，一時的な感情の動きがあり，それが原因で，表情や，身体的動作を伴う点に焦点が当たっている。つまり，「その動きが一時的に生起し，次の瞬間には，あるいは暫くして，もとの（通常の）状態に戻るような性質をもったものである点に意味的な特徴がある」（寺村：142）と捉えられる。それとは，逆に『～ヲ』タイプ（例：楽しむ，憎む，苦しむ，嫌う，愛しむ）は，純粋に心の感情の状態を捉えている。『～ヲ』は，心理的対象であるので，受け身にすると動作主がニだけでなく，カラも取るという統語的違いがある。

(2)　皆が犯人をつかまえた→犯人は皆　ニ／*カラ　つかまえられた

(3)　皆がその選手を愛している→その選手は皆　ニ／カラ　愛されている

また，『～ヲ』タイプの動詞の意味と形容詞との相違点の一つは，動詞表現の方が，より客観的で物語文的であると言える。例えば，「山田さんは，この町を愛していた」は，使用する頻度は低いが，物語中や，客観的描写として，話しことばでも使用可能である。一方「愛してる」の意味に相当すると考えられる形容詞の「大好き」で入れ替えて，「山田さんは，この町が大好きだった」と言えば，日常の会話で問題なく使用できる。

形容詞の感情表現は，動詞の補語の違いというような形式上の違いがなく，いずれの形容詞も『～が』という形を取る一方で，寺村は意味の観点から次の2タイプ

に分けている。

(4) ○ 話し手自身の対象に対する感情を直接表出するもの

例：「私は生活が楽しい」「私は犯人が憎い」

○ 主観的な性状規定・判断（『が』が主題化され，『は』になる）

例：「ゴキブリは恐ろしい」「花子はかわいらしい」

寺村は，以上の感情表現を 4 タイプに分け，それぞれのタイプについて考察している。本稿では，日英対照の立場から感情表現を考えるので，2.2 では，寺村が英語との違いに言及している部分だけを取り上げる。

2.2 感情表現における日・英の文法的特徴

まず，動詞の『～ニ』タイプにかんして，対応する英語ではほとんどの場合，受け身形で表現される点が注目される。(5)(6)の例のように，日本語の「ニ」タイプのそれぞれの英文表現では，受動態となる。

(5) 彼は，その音に　驚いた／ぎょっとした／びっくりした。

He was surprised／frightened／startled at the sound.

(6) 私は，その結果に　がっくりした。

I was disappointed with the result.

（英語の部分のみ：寺村 1982：141–2）

また，形容詞は，主体が第三者だと不自然な文になることがよく言われる。例えば，(7)–(9)は，寺村が挙げている例で，「怖い」「うれしい」「～したい」という形容詞表現で，英語は，1・3 人称（i，ii）ともに自然であるが，日本語の 3 人称(ii)の文は不自然になる[3]。

(7) (i) 「私は犬が怖い。」‘I am afraid of dogs.’

(ii) 「？あの子は犬が怖い。」‘That child is afraid of dogs.’

(8) (i) 「私はあなたと知り合えてうれしいです。」‘I am happy to have met you.’

(ii) 「？母はあなたと知り合えてうれしいです。」‘My mother is happy to have met you.’

(9) (i) 「私，何か冷たいものが飲みたいわ。」‘I want something cold to drink.’

(ii) 「？この人，何か冷たいものが飲みたいわ。」‘This person wants something to drink.’

（日本語の部分のみ：寺村 1982：147）

このように日・英の感情表現に相違点が認められることから，学習面で何が言えるだろうか。日本語を母語とするものが英語を学習する時に，感情表現に限って，少なくとも次の２点を認識しなければならない：１）英語では，受動態を使用する表現が多くあること，２）日本語で主語の制限がある表現（１人称のみ可能）が英語では制限がないこと。

次に，寺村の『～ニ』タイプと『～ヲ』タイプそれぞれに属する語彙の中で〈快〉に関する感情を表すものについて検討してみよう。

⑽　『～ニ』タイプ　……「うっとりする」「浮かれる」「安心する」
　　『～ヲ』タイプ　……「喜ぶ」「楽しむ」「望む」

寺村は，動詞の『～ニ』タイプの，対応する英語はほとんど受け身形で表現されると述べているが，『～ヲ』タイプの，対応する英語については言及していない。それでは，『～ヲ』タイプを英語で表現すると，態はどうなるであろうか。⑽の『～ヲ』タイプの３語を考えてみよう。研究社新和英大辞典によると，「楽しむ」と「望む」の日本語に相当する表現は以下のようである。

⑾　「楽しむ」：‘take［find］pleasure［delight］in…; ‘enjoy（an evening); enjoy *one*self（over *sth*, by *do*ing); ‘have a good［pleasant, nice］time’
　　「望む」　：‘desire; be desirous of…; be anxious（to *do*, that…）want（to *do, sth*); wish［crave］for …; hope（to *do*, for); aspire to［after］

これら２語には，受動態は見つからないが，「喜ぶ」は，次に示す通り，能動，受動の両方の態に相当する。

⑿　「喜ぶ」：‘be glad（of…); rejoice［be rejoiced］（at［over]); be delighted（at …to *do*); delight［take delight］（in…); be pleased（at…); congratulate［felicitate］*one*self（on…); jubilate’

従って，『～ニ』タイプだけでなく，「喜ぶ」のような『～ヲ』タイプに相当する英語でも，‘be rejoiced,’‘be delighted,’‘be pleased’等のように，受動態で表現することが可能である[4)]。

以上から感情表現にかんする文法的特徴で，日・英の相違点は，形容詞の場合，日本語では主語の制限があり，動詞の場合，英語では受動態でも表現することがあると要約できる。

3．語彙・意味的研究：「ウレシイ」と「タノシイ」

感情を表す語彙と意味の研究としては，辞書などのような形式のもの（森田（1989）中村（1993）柴田他（1976-82））や，意味の推移（山口（1982）），また，語源探求と語義の研究（阪倉（1983））等がある。ここでは，〈快〉の感情である「喜び」を表す2語，「ウレシイ」と「タノシイ」の意味の相違点を考察している研究を以下，西尾（1993），山田（1982），菊地（2000）の順に紹介する。その後，これら2語が英語でいかに表現されるかについて考える。

3.1　西尾（1993）

西尾（1993）は，喜びや，楽しみを表現する現代語について，考察しているが，その中で，ウレシイとタノシイについて触れている部分を取り上げる。西尾によるそれぞれの語の定義は⒀である。

⒀　ウレシイ：あることが生じたり，何かを知ったりした時に，それが自分にとり望ましい，価値の高いことで，心がおどるようにあかるくなった状態

　　タノシイ：快を感じられることに加わって味う，持続的なみちたりた感情

西尾によると，喜びの感情を表す形容詞のウレシイは，古代から使用され，源氏物語でも200回ほど使われており，現代でも使用頻度が高い代表的な語である。西尾はウレシイとタノシイの違いを，次の対比から考えている。

⒁　タノシイパーティ

　　*ウレシイパーティ

ウレシイがパーティと共起しない理由は，ウレシイという語が，感じる主体の内面性と強く結びついているからで，そのため対象の属性や雰囲気を表すタノシイでなければならない。

ウレシイは，感情の主の内面で起きていることなので，外に表われることで初めて認知される。西尾は，⒂のような表現が存在することから，何らかの肉体的な兆候を伴いやすいとも述べている。

⒂　いかにもウレシそう

　　声がウレシそう

　　ウレシそうな笑顔

また，ウレシイは，述語用法が多いが，タノシイは，連体用法が多くみられる。

例えば，「タノシイ気分」「タノシイ集い」「タノシイ時」などが多くの用例がある。また，連用修飾として「タノシク」は，人々の様子を表し，継続的な感情を示す。「タノシク遊ぶ／暮らす／生きる」など多く言えるが，「*ウレシク遊ぶ／暮らす／生きる」とは，言えない。

3.2　山田（1982）

山田（1982）は，ウレシイとタノシイを比較して，その違いを論じている。感情は，〈快〉か〈不快〉のどちらかの意味特徴を持っていると考え，ウレシイとタノシイの共通点として，〈快〉という意味特徴を共有する語であるとみなしている。山田の定義のそれぞれの語彙の定義は，⑯に示す通りである。

⑯　山田の定義：

ウレシイ：あることがらを快として認知した瞬間に生じる感情

タノシイ：快と感じられる行動への能動的関与によって生じる感情

ウレシイの定義である，快として認知した瞬間に生じる感情とは，⑰の例文が不適切であることから説明できる。

⑰　*10年前に入試に合格したことが今とてもウレシイ。

山田によると，タノシイは，主体の行動が能動的でなければならない。⑱が不適切で，⑲が適切なのは，「もらう」という行為が受け身であるからで，能動的な「一杯やる」が加わると，タノシイと共起できる。

⑱　*賞金をもらって楽しかった。

⑲　賞金をもらって一杯やって楽しかった。

一方，ウレシイは，「ことがらの認知」が誘発要因であるので，受動的であると考えている。次の例では，「頂戴する」が非意図的行為（＝受動的）であり，「遊ぶ」は，意図的行為（＝能動的）である。

⑳　贈り物をウレシク頂戴する。

㉑　*贈り物をタノシク頂戴する

㉒　*子供とウレシク遊ぶ。

㉓　子供とタノシク遊ぶ。

3.3　菊地（2000）

菊地（2000）は，先行研究（森田（1989），山田（1982），藤田（1991），西尾（1993））を再検討しながら，タノシイとウレシイの違いについて，これまでの研究が見落と

していた視点から，本質を捉えた簡潔な説明を提案している。

菊地は，最初に，タノシイの意味を理解する上で，先行研究が触れていない重要な点があると指摘する。それは，タノシイには，《時間の過ごし方》を問題にするという特徴があることだ。これは，この語彙の本質的な特徴であるので，タノシイに，〈誘発要因〉が有るか無いかは，あまり問題にはならないと主張している。また，菊地は，山田の意見とは違って，タノシイは〈能動的〉であるとは限らないと述べている。次の例のように時間の過ごし方に関連することなら，受動的関与（「～かけられたり，～もらったり」）であってもタノシイが使用可能である。

⑵④　パーティに誘われたので行ってみたら，旧友に声をかけられたり，ビンゴの賞品をもらったりして，なかなかタノシカッタ。

そこで，山田の例は菊地によると次のように説明できる。

⑱'　*賞金をもらって楽しかった。

⑲'　賞金をもらって一杯やって楽しかった。

⑱'が不適当で，⑲'が自然なのは，「もらう」が時間的な過ごし方に関係しないが，「一杯やる」は，関連しているという理由からである。

ウレシイについては，森田，山田と同様に，《何かに触発されて起こる》感情であると考える。そこで，菊地はタノシイとウレシイという語彙において注目すべき特徴を以下のように明確に提示している。

⑵⑤　タノシイは，《時間の過ごし方》についての表現である。
　　ウレシイは，《心の動き》についての表現である。

つまり，ウレシイは，《何かに触発されて，心の動き（感情）が起きる》と理解される。また，ウレシイという感情を，山田が〈快〉，森田が〈喜び〉，と記述しているが，菊地はどちらを採択するのでなく折衷案として，〈快／喜び〉と記述している。⑵⑥が不適切であるのは，山田が指摘している通り，ウレシイは，明らかに感情表現で，感覚表現ではないからである。

⑵⑥　*風呂から上がった時に涼しい風にあたるとウレシイ。（山田：114）

⑵⑥は，ウレシイの代わりに感覚表現の「気持ちがよい」，「いい気持ちだ」と言えば適切になる。それで，この感情を引き起こす「誘発要因」は何か良い事が実現したり，間近に起きるような事でもよい。その上で，話し手や感情移入した人にとって，〈当人を直接的に益する，積極的な意味でのいいこと〉であると考えられる。次の例は，話手当人にとってライバルの失敗は，〈快〉であっても，〈積極的な快〉ではないことから不自然になる。

(27)　？ライバルが大失敗して，ウレシイ。

さらに，ウレシイは，〈それほど実現しやすくないこと〉に用いられる。それは，次の例文が自然であると感じられる状況を想像すれば分かる。

(28)　無事に帰れて，ウレシイ。

(28)は，普通の旅行から帰った場合には不自然であり，途中で，大事件に巻き込まれたり，病気にかかった場合には適切表現になる。

また，ウレシイは，〈実現をコントロールできないこと〉にも使用される。

(29)　？福祉関係に寄付をして，ウレシイ。

(30)　昔は，貧しくて寄付どころではなかったが，今は寄付ができるほどにまでなって，ウレシイ。

(29)が不自然なのは，寄付をすることは，自分が意図すればできる行為であるからで，(30)が適切な文と成りうるのは，「寄付ができるほどにまでなった」状態は，自らの意思では必ずしも実現しないからである。以上のように，ウレシイが話し手（または当該の人物）がコントロールできないことが実現されることを表現するということは，山田が〈受動的〉であると述べていることと一致している。

以上の新しい視点から，菊地は，ウレシイとタノシイの定義を次のように記述している。

(31)　菊地の定義：

ウレシイ：〈いいこと＝自分（当該の人物）を直接に益することで，それほどは実現しやすくなく，自分ではその実現を（完全には）コントロールできないこと〉が起こり，あるいはその実現が間近に迫り，それに触発されて起こる〈快／喜び〉の感情

タノシイ：時間の過ごし方について，心で〈快〉と受け止める感覚

(31)で，タノシイが「感情」ではなく「感覚」としての定義されていることに注目したい。菊地は，ウレシイは《心の動き》についての表現であり感情であると記述するのにふさわしいと考える一方で，タノシイの定義に，あえて『感覚』ということばを選んでいる。そして，タノシイをオモシロイと対比することで，その理由を説明している。オモシロイは，時間の過ごし方を問題にしている点で，タノシイと同じ特徴を共有するが，「この論文，オモシロイよ」などと言うように『心』でなく，『頭』で受け止めて評価する語である点で，タノシイと異なる。従って，タノシイは，『心』で〈快〉と感じる行為だとして，感情ではなく，感覚であると考えられている。また，菊地（2000：147）は「…タノシイという《感覚》は，〈話し

手あるいは問題の人物の感覚〉である場合が基本なのではあろうが，〈他の人にも同じように共有される感覚〉としても成立しやすい」と付け加えている。感覚語彙について，山口（1982：204）が，その範囲は曖昧であると述べながらも，最も典型的な形容詞として分類しているのは次の通りである。

(32)　i）「かゆい」「くすぐったい」など当事者以外は感じられない皮膚感覚
　　ii）「涼しい」「暑い」など温度に対する皮膚感覚
　　iii）「だるい」「ねむい」など体の深部から生じる感覚
　　iv）「息苦しい」「胸苦しい」などの内臓感覚語。

菊地の言う『感覚』は，この中では，（32iii）に近似するものと理解してよいのではないだろうか。

菊地は，最後に，タノシイとウレシイという語彙を理解するために，最も重要な点は(33)であると再確認している。

(33)　ウレシイ：《触発された心の動き》についての表現
　　タノシイ：《時間の過ごし方》についての表現

菊地は，(33)の2点から，これら二語の使い分けをすべて説明できるだろうと述べている。すでに3.2でみた山田の扱った例，(20)–(23)を菊地の理論から説明している。

(20)'　贈り物をウレシク頂戴する。
(21)'　*贈り物をタノシク頂戴する
(22)'　*子供とウレシク遊ぶ。
(23)'　子供とタノシク遊ぶ。

(20)'(21)'では，《心の動き》が意味されているので，ウレシイが使用されるべきで，(22)'(23)'は，《時間の過ごし方》について表されているので，タノシイが適切になると言える。

ところで，菊地は，これら2語は，典型的な類義語ではないと指摘している。それは，例えば，典型的な類義語である「アガル」と「ノボル」の両語には，《上への移動についての表現》というような下線で示した共通項が見つけられるが，(33)を見て分かるように，タノシイとウレシイの場合には，それがないからである。「ただ，タノシイも，《心で受け止める》という要素をもつし，どちらも〈快〉の感覚・感情なので，意義特徴の共有が豊かに認められるという意味では，類義語と呼んでもよかろう」（菊地 2000：155）と，述べているが，菊地は，ある意味ではこれらの語は異質であると主張している。

以上見てきたように，菊地の見解は，西尾と山田に比べて，「ウレシイ」と「タ

ノシイ」の違いの本質まで触れるなど綿密に検討され，最も評価できると考えられる。3人の定義を比較して明らかであるように，「ウレシイ」にかんしては，菊地が「自分にとって利益がありコントロールできないこと」に用いられると指摘し，「ウレシイ」という感情を引き起こす出来事の性質をより厳密化したこと，また，「タノシイ」は「感覚」であるとしている点が注目に値する。

3.4 「ウレシイ」と「タノシイ」に相当する英語語彙

〈快〉を表す英語の表現の代表的な語の中に‘happy’がある。この単語の意味は，研究社新英和大辞典（2002）とジーニアス英和大辞典（2001）では，「幸福な」「愉快な」等の他に，「ウレシイ」「タノシイ」の両方の意味が見つけられる。例文の中には，以下が挙げられている。

(34)　‘The children seem to be very happy.’「子供たちはいかにもタノシそうだ。」

(35)　‘I am happy for the plan to proceed.’「その計画が進行してウレシイ。」

上の2例で，‘happy’をウレシイとタノシイの両方に訳していることは，ウレシイ・タノシイ各々に対応する単語がないと推測される。それでは今度は逆に，これらの語に対応する英語語彙を研究社の新和英大辞典（2003）で調べてみよう。単語レベルでは，(36)のような英語表現があげられている。

(36)　ウレシイ：［喜ばしい］joyful，delightful，happy，pleasant，gratifying，glad
［うれしく思う］（be） happy［glad，pleased，delighted，over-joyed］

タノシイ：merry，pleasant，happy，cheerful，delightful，enjoyable，joyous，joyful，sweet

ウレシイは［喜ばしい］と［うれしく思う］という二つの意味に分けられているが，これら両方とタノシイに共通する英語語彙は‘happy’である。また，‘pleasant’は［喜ばしい］としてだけではあるが，ウレシイの意味がある上，タノシイという意味もあるので，共通語彙と考えられる。(36)であげた形容詞の他に，文レベルの例文(37)–(40)では，「ウレシイ」と「タノシイ」に対応する意味に，下線部分の名詞（‘pleasure’，‘fun’）や動詞（‘hope’，‘enjoy’）が使用されて訳されている。

(37)　「君に会えて本当にウレシイ。」
‘It is a real pleasure to meet you.’

(38)　「このスカーフ気に入っていただけるとウレシイわ。」
‘I do so hope you’ll like this scarf.’

(39) 「今日はタノシかった？」

'Did you enjoy yourself today ? '

(40) 「明日はタノシイ遠足だ。」

'Tomorrow's the excursion that's going to be a lot of fun.'

以上から，「ウレシイ」「タノシイ」の意味を表す英語表現を調べると，品詞は一つではなく，名詞，形容詞，動詞があり，また様々な語彙があげられていることが分かる。しかし，その中で，'happy' と 'pleasant' が，両方の語義を表せる点に留意するべきである。

3.5 「ウレシイ」の関連語彙

菊地（2000：157–8）は，ウレシイとの関連から，「シアワセダ」，「ヨロコバシイ」，「ヨロコブ」の語義の説明をおこなっている。次の節で英語の快感情の基本語彙を考える際に，必要となるので，ここで紹介しておく。

(41) シアワセダ…心の一時的／長期的な状態を述べる語で，《触発》を必要とせず，幸福感によっては，〈直接的・積極的ないいこと〉でなくてもよく〈それほどは実現しやすくないこと〉でなくてもよい。

(42) ヨロコバシイ…ウレシイに近いが感情を客観化してのべる趣があり文体的に堅く公式的である。

(43) ヨロコブ…感情そのものをあらわすというより，感情を有することを客観的に描写する語で，話手自身の感情を表すために使用しない。

「ヨロコブ」は(44)のように，話手自身について表現する文は，不適切になるが，話手自身がふくまれた場合(45)や，話手自身の感情としても客観的な描写の対象である場合(46)，適切な文になる。

(44) *私はあなたに会えてヨロコンデいます。

(45) その時われわれはヨロコンダ。

(46) ヨロコンダのも束の間，その後に大変なことが待っていた。

以上，語彙の面からの感情表現の研究を「ウレシイ」と「タノシイ」の違いに焦点を当て，日本語から英語を考える試みをした。次の節では，逆に英語から日本語の感情表現の語彙ついて考えることにする。英語語彙の研究として，Wierzbicka（1999）の分析を取り上げる。

4．英語の感情表現

この節では，英語の〈快〉感情を表す基礎語彙について，Wierzbicka（1999）の研究を取り上げる。Wierzbickaの方法論で優れている点は，言語間で普遍的な概念を表現する基本的語彙だけを用いて語彙の意味を「認知シナリオ」として説明することに成功していることである。

4.1　‘Happy’の類義語について

我々が外国語として，英語の単語の意味をよりよく知りたい時，辞書を調べ，例文を参考にしたり，類義語との関連情報を得ることで，知識を膨らませていく。例えば，英語の‘happy’と類義語の関係を考えてみよう。研究社新英和大辞典（2002）は，‘happy’の項で，同義語との違いについて(47)のように説明している。

(47)　幸福な[5]

happy：喜びや満足の感情を抱いている一般的な語

glad：喜悦の感情を抱いている“I was glad for his sake.”「彼のために喜んだ」

cheerful：幸福で朗らかなのが態度に表れている：
‘a cheerful face’「機嫌のいい顔」

joyful：通例，特定のことを喜んでいる：
‘a joyful countenance’「喜びにあふれた顔つき」

joyous：（文語）＝joyful：‘a joyous heart’「喜びに満ちた心」

(47)にあげられている語の中で，「幸福な」を表現するのに，‘happy’が一番偏りのない中立的な語彙であると知ることができる。しかしながら，‘happy’自体の意味が明らかになっていないだけでなく，関連語彙との本質的な違いを知る手がかりがない。その点において，以下で扱うWierzbickaの分析方法は優れていると言えよう。

4.2　Wierzbicka（1999）の感情概念の分析方法

従来の心理学の感情研究で，英語の単語（‘disgust, ‘fear’, ‘shame’等）を基盤に，一般の人間の基本的な感情が定められていることに対して，Wierzbickaは意義を唱えている。それは，感情語彙が表す概念は，文化特有のものであるからで，例えば，オーストラリアのアボリジニのGidjingali語では，‘fear’と‘shame’を区別

せず，この二つの感情のために一つの語彙しかない[6]。また，ロシア語には，英語の‘sadness’と‘anger’に相当する語彙は，厳密には存在しない[7]。このように，さまざまな感情をいかに区切って語彙化していくかは，文化によって異なるのである。

Wierzbickaは，言語間での感情を論じるには，適切なメタ言語が必要であると提案している。そして，すべての言語は共通する中核があるという仮定に立ち，類型的に多様で，起源が同じでない多くの言語を長年調査した結果，言語すべてに共通して存在すると推測される概念と語彙と文法を抽出し，「自然意味的メタ言語」（＝‘natural semantic metalanguage’）[8]を造り，文化によって決定される感情表現の意味を偏りなく説明する手段として使用している。

一例として，英語の‘sadness’の意味の記述を見ることにする。(48)は，‘sadness’の意味で，(a)–(h)の部分で構成されている。

(48) *sadness*（e.g. X feels sad）

(a) X feels something

(b) sometimes a person thinks:

(c) “I know: something bad happened

(d) I don’t want things like this to happen

(e) I can’t think now: I will do something because of this

(f) I know that I can’t do anything”

(g) because of this, this person feels something bad

(h) X feels something like this

（Wierzbicka（1999：39））

(48)の内容を説明すると次のようになる。ある人（上の‘X’），例えば「私」が‘sad’を感じているのは，一般の人が(b)–(g)で記述されているようなことについて，私も同様な感じをもつ（＝h）と解釈する。具体例をあげると，私（＝‘X’）のかわいがっている犬が死んで私は，‘sad’を感じるとする。そのためには，まず(b)：私は考える。そして，(c)：何か悪い事（犬が死んだ事）が起きたことを知っていて，(d)：こんなことは起きてほしくないと思っている。また，(e)：犬が死んだことに対して何かする予定は考えられないし，(f)：何もできないことが分かっているので，(g)：何か悪い感情がする。この感情を一般化すると，私は，(b)–(g)をする人のように感じると考えられる。つまり，(a)と(h)は，(48)のシナリオを私という個人に特定する説明ではなく，普遍性をもたせるために必要な要素であると理解する。それで，(b)–(g)の部分を典型的認知シナリオ（＝‘prototypical cognitive scenario’）と呼び，

(a)と(h)から区別するために，引っ込められている。

4.3 〈快〉感情の分析

Wierzbicka（1999：49–60）は，英語は他の言語と同様に，良い出来事で喚起された良い感情を表す語彙は，比較的少ないと述べている[9]。そして「良い出来事」が起きた，あるいは，起こっている，または，起こるだろう／起こりうる ということに関連する概念で，同時に「良い感情」の意味合いがある英語語彙の中で，一般的なものについて論じている。取り上げられている語彙は，‘joy’ ‘happy（happiness）’ ‘contented’ ‘pleased（pleasure）’ ‘delighted（delight）’ ‘relieved（relief）’ ‘excited（excitement）’ ‘hope’ で，それぞれの cognitive　scenario（＝認知シナリオ）を明らかにしている。Wierzbickaは，‘happy’ は ‘joy’ より文化的により顕著な概念であるが，‘joy’ のシナリオの方がより単純なので，最初に ‘joy’ の意味を考え，そのシナリオを基本に関連語彙についてそれぞれの特徴の解明を試みている。

4.3.1 ‘Joy’

‘Joy’ は，現在 ‘happy’ ほど，頻繁に使用されないが，実はShakespeareの作品では，両語は，同じ頻度で現れていた。しかし，Bernard　Shawの作品では，‘happy’ が ‘joy’ の7倍も使用されている。‘Joy’ は，‘happy（happiness）’ にくらべて単純な認知シナリオであるために，最初に論じられている。

‘Joy’ のシナリオには，次の2つの決定的な認知構成要素がある。

(49)　○価値を表す構成要素（‘evaluative component’）：
“something very good is happening”
○意思を表す構成要素（‘volitive component’）：“I want this to be happening”

換言すると，‘joy’ の中核の意味は，「非常に良い何かが起きていて，私はそのことが起きてほしいと思っている」であり，その認知シナリオは以下のようになる。

(50)　*Joy*（e.g. X felt joy）
(a)　X felt something because X thought something
(b)　sometimes a person thinks:
(c)　“something very good is happening
(d)　I want this to be happening”

(e) When this person thinks this this person feels something very good

(f) X felt something like this

(g) because X thought something like this

4.3.2 'Happy'（'happiness'）

'Happy' は，起こってほしいと思っている何か良いことが起きる時生じる感情である。Wierzbickaは，'happy' と 'joy' を比較するから，'happy' の意味を探っている。彼女の挙げている相違点を要約すると以下の 4 点になる。

(51) (i) 個人的要素

'Happy' は，個人的要素を含み，「私に（*to me*）起きた何かよい事」を表すが，'joy' は，非自己的で，皆で分かち合える。

(ii) 時間

'Happy' は，長期的状態で，'joy' は，短期的状態を表す。従って，'happy' は 'joy' よりも安定した感情で，'joy' は，'happy' より激しい感情であると言える。

(iii) 目標

'Happy' は，目標が達成されたり，夢が叶う等の良い出来事であり，予期しない，夢にも考えないような出来事ではない。そこで 'joy' と区別される部分は，過去に結びつく概念であるということで，次の構成要素は，過去形になる：

○ 'evaluative component' → "some good things happened to me"

○ 'volitive component' → "I wanted things like this to happen to me"

また，'happy' は，'joy' に比べて，いろいろな種類の原因と結びつくことから 'some good things' と複数形になる。

(iv) *Contentedness*との関連

'Joy' とは違って，'happy' は，*contentedness*（＝満足）と結びつき，［欲しいものすべてがあるので，この他に何もいらない］という意味を含む。

以上の点から，'happy' のシナリオは次のようになる。

(52) *Happy* (X was happy).

(a) X felt something (because X thought something)

(b) sometimes a person thinks:

(c)　“some good things happened to me

(d)　I wanted things like this to happen

(e)　I don't want anything else now”

(f)　When this person thinks this this person feels something good

(g)　X felt something like this

‘Happy’の認知シナリオが‘joy’とどのように違っているかを要約して，以下6点があげられている。

(53)　(i)　(c)…‘to me’が付け加えられている。

(ii)　(c)…‘happen<u>ed</u>’と過去形である。(‘joy’は，‘is happening’)

(iii)　(c)…‘some thing<u>s</u>’と複数形になっている。

(iv)　(c)(f)…‘good’(‘joy’は，‘very good’)

(v)　(d)…‘I want<u>ed</u>’(‘joy’は，‘I want’)

(vi)　(e)が付け加えられている。

(53)でWierzbickaが述べていない違いがあることに気づくべきだ。それは，‘joy’の“(g)　because X thought something like this”が‘happy’には，欠けていることである。要するに，‘happy’を感じるためには，「思考」を必要とはしないと解釈できる。これと関係する特色であるが，Wierzbickaは，‘happy’が次の文のように不可解な感情である可能性も存在すると指摘している。

(54)　I feel happy today, I don't know why.

「今日‘happy’だと感じている。何故だか分からないけど。」

このように理由なく感じることは，「感情」というより「感覚」に近いとは言えないだろうか。3.3で見たように，菊地がタノシイを「感覚」と定義していたことと関連すると思われる。3.4で，‘happy’は，ウレシイとタノシイに訳されているのを見たが，(54)の‘happy’の訳は，(55)(56)から分かるように，「うれしい」では不適切であるが，「楽しい」は不自然ながら，不可能ではない。

(55)　*今日うれしい。何故だか分からないけど。

(56)　？今日楽しい。何故だか分からないけど。

以上から，‘happy’と「タノシイ」は「感情」というより「感覚」という性質を共有していると推測できる。

また，Wierzbickaは，ヨーロッパの他の言語に対応する語彙と比較してみると，‘happy’は，かなり弱い意味になっていると指摘している。また，‘happy’の意味は，‘happiness’の意味より弱くなっていることも観察されている。これは，現

代英語で新しく使用され始めた‘happy　with～’（～に満足している：例：“He's happy with his new job”「彼は，新しい仕事に満足している」）という表現が原因で，‘happy’が必ずしも「幸福感」を含蓄しなくなったのではないだろうかとWierzbickaは推測している。

4.3.3　その他の類義語

その他の語彙の意味について，簡単に触れることにする。

Contented

猫が暖かい場所で横になっている気分に相当すると言える。‘Contented’は，‘happy’のように，‘quite’とは共起するが，‘very’と共起しにくい（？‘very contended’）。このことから，‘contented’は，‘happy’より弱く，同時によりプラグマティックであると述べている。また，‘contented’は，現在の幸せに焦点があり，現在の欲望が欠如している。従って，‘happy’の表す範囲より制限がある。

Pleased　（pleasure）

次の例からも分かるように，‘pleased’は，‘happy’と違って，「思考」を必要とする。

(57)　? I feel pleased, I don't know why.

また，‘happy’と同様に，目標達成の内容を意味するが，‘happy’より，個人的な事でなく，焦点がより絞られている。例えば，同僚が昇進した時のそれぞれの意味は次のように説明できる。

(58)　I am pleased.

「良い事が起きたが，その事がまさに私が起きてほしかったことである。」

(59)　I am happy.

「自分が同僚であると考える事で，自分に何か良い事が起きたという意味になり，また，昇進ということでなく，一般的に何か良い事が同僚に起きてほしかった。」

Delight

期待していなかったことで，非常に良い何かが起きたことに気づいた時に生じる感情である。おおざっぱに言うと，‘delighted’は，驚いていると同時に‘pleased’の感情が混じり合ったものである。しかし，‘pleased’と‘delighted’は，以下の違いがある。

(60)　‘pleased’……‘delighted’より目標の達成に適合し，出来事をコントロールできる意味が含まれている

‘delighted’……起きたことは，単に良いことではなく「非常」に良いことで，そのために，そのことを非常に良いと感じている

Relief

期待していた悪いことが起きないということに気づいた時に生じる感情。

Excitement

「何か非常に良い事が起こるだろう」や「私はこれが起きてほしいと思っている」に関係した感情である。しかし，コントロールできない要素が含まれる。最近気づいたことであるが，期待していたものではない。

Hope

‘Excitement’と同様に，未来の望みを表すが，「非常に良い」でなく，単に「良い」出来事で，起きる確信はなく，起きる可能性があることを指す。また，‘excitement’より，焦点が定まっていない（= ‘some good things’）。

4.3.4　*Happy* に相当する日本語の語彙

4.3.1–4.3.3で，扱った英語基礎感情語彙の中で，‘happy’に焦点を当て，その意味を表す日本語語彙との関連を調べてみたい。すでに，3.4で観察したように，‘happy’は，「ウレシイ」と「タノシイ」の両方に訳されている。‘Happy’が，この2語とどのような関係にあるのかを，「ウレシイ」から考えてみよう。

Wierzbickaは，‘happy’の意味を明確化するために，(51)で，‘happy’と‘joy’を比べ，違いを4点にまとめている。ここで，これらの特徴を，今度は‘happy’と「ウレシイ」を比較するために利用してみよう。「ウレシイ」の定義は，菊地(2000)を参考にする。すると，(61)から，4点の中で，(i)だけが同じで，他の3点で異なっていることが分かる。

(61)　(i)　個人的要素

‘Happy’…個人的要素を含み，「私に（*to me*）起きた何かよい事」

「ウレシイ」…自分に直接利益になること

(ii)　時間

‘Happy’…長期的状態で，安定した感情

「ウレシイ」…心の動きについての表現なので，短期的状態

(iii)　目標

‘Happy’…目標の達成や夢が叶う等の良い出来事

「ウレシイ」…それ程実現しやすくないこと

(iv) *Contentedness*との関連

‘Happy’…*contentedness*（＝満足）と結びつき，［欲しいものすべてがあるので，この他に何もいらない］という意味を含む。

「ウレシイ」…*contentedness*（＝満足）と結びつかない

（例：「私は，彼の成功がウレシかったが，満足してはいなかった。」）

「ウレシイ」は，‘happy’だけでなく，4.3.3で扱った‘pleased’と‘delighted’にも相当する場合があるが，これらに共通した性質の一つは，‘happy’に欠けている「思考」であろう。

次に，‘happy’と「タノシイ」との関係を調べてみよう。4.3.2で指摘したように，‘happy’には，理由なく生じる感情で，感覚に近い意味を表す可能性がある。また，3.3で見たように，菊地は「タノシイ」を『時間の過ごし方について，心で〈快〉と受け止める感覚』と定義している。‘Happy’は「時間の過ごし方」についての表現ではないと思われるが，「タノシイ」との関係は「〈快〉」と「感覚」という共通の性質で結ばれていると言える。その理由から，‘happy’が「タノシイ」と訳される可能性があるのだろう。

‘Happy’と「シアワセダ」を比べてみよう。菊地の「シアワセダ」の説明をもう一度引用する。

(41)’ シアワセダ…心の一時的／長期的な状態を述べる語で，《触発》を必要とせず，幸福感によっては，〈直接的・積極的ないいこと〉でなくてもよく〈それほどは実現しやすくないこと〉でなくてもよい。

(61)と同様に，４つの観点から，‘happy’と「シアワセダ」を比較すると次のようになる。

(62) (i) 個人的要素

‘Happy’…個人的要素を含み，「私に（*to me*）起きた何かよい事」

「シアワセダ」…個人的要素を含まない

(ii) 時間

‘Happy’…長期的状態で，安定した感情

「シアワセダ」…一時的／長期的な状態

(iii) 目標

‘Happy’…目標の達成や夢が叶う等の良い出来事

「シアワセダ」…それ程実現しやすくないことでなくてもよい

(iv) *Contentedness*との関連

'Happy'…*contentedness*（＝満足）と結びつき，［欲しいものすべてがあるので，この他に何もいらない］という意味を含む。

「シアワセダ」…*contentedness*（＝満足）と結びついている？

（例：「？私はシアワセだが，満足していない。」）

(62)から，(i)以外の，３点（(ii)–(iv)）で共通した性質が認められる。しかしながら，Wierzbickaは，'happy'の意味に「思考」を入れておらず，(54)の文が適格なことから理由がなくても湧き上がる「感覚」としての意味もあると考えられるが，「シアワセダ」では無理である（「*私は，シアワセダ。何故だか分からないけど。」）。以上から，'happy'と「シアワセダ」は，重なり合う意味もあるが，相違点もあることが明確になった。

５．結論

本稿は，主に，〈快〉感情を表す基礎語彙の意味について英語と日本語を比較した。日本語の分析は，菊地（2000）を，英語の分析はWierzbicka（1999）を参考にしながら，「ウレシイ」「タノシイ」と'joy''happy（happiness）'等の意味を詳細に検討した。その結果，日本語と英語の基本的な〈快〉感情語彙は，同じ要素を共有しながら，厳密には一対一として対応しないという結論に導かれた。具体的に本稿の初めの問いに関連して述べると，「私は幸せだ」は，"I am happy"ではないということになる。その理由を簡単に説明すると，'happy'には「シアワセダ」の意味の他に，部分的には，日本語の「ウレシイ」「タノシイ」の意味も含んでいる。さらに，現代英語で，'happy'の意味が弱まっていることも注目すべきであるだろうし，「シアワセダ」とは違って，'happy'は「感情」というよりは，「感覚」に近いと考えられるからである。

本稿では，〈快〉感情表現の中でも，基礎語彙だけに限って検討したが，詳しく取り上げた語彙は限られ，今回扱えなかった基礎語彙の研究など残された課題は多い[10]。

註

１）日本語で〈快〉感情を表す語彙とは，具体的には『分類語彙表』の中で，「精神およ

び行為」という項の中の「快・喜び」に分類されているものを指すと考えてよいだろう。例えば次のようなものがある。

名詞：愉快　快感　気持ちよさ　快さ　喜び　大喜び　驚喜　歓喜
天にも昇る心地　お祭り気分　ご機嫌　一喜一憂　ぬか喜び
楽しみ　享楽　快楽　エンジョイ

形容詞：心地よい　いい気持ち　晴れ晴れ　すがすがしい　愉快　楽しい
おもしろい　興味深い

動詞：清々する　すっきりする　さっぱりする　さばさばする　晴れる
すかっとする　喜ぶ　歓喜する　悦に入る　狂喜する

また，『類語大辞典』では，「喜ぶ・楽しむ（歓喜）」の項の中で，「喜ぶ」「楽しむ」「浮かれる」の中に含まれる語が〈快〉感情語である。この3語に分類された語彙の例を品詞ごとに以下に挙げる。

○「喜ぶ」

動詞：喜ぶ　嬉しがる　有頂天になる　小躍りする　満足する

形容詞：うれしい　喜ばしい　運が良い

形容動詞：大喜び　喜色満面　有頂天　幸せな　幸福な　ハッピーな

副詞：喜んで　いそいそと　ほくほくと　幸いにも

名詞：喜び　嬉しさ　幸せ　幸福

○「楽しむ」

動詞：楽しむ　興じる　エンジョイする　満喫する　堪能する　謳歌する

形容詞：楽しい

形容動詞：愉快　痛快

副詞：心行くまで

名詞：楽しみ　快楽　娯楽

○「浮かれる」

動詞：浮かれる　はしゃぐ　浮つく　舞い上がる　心が弾む　るんるんする

形容詞：なし

形容動詞：上機嫌　ご機嫌　るんるん　痛快

副詞：浮き浮きと　ふわふわと

名詞：躁　御祭り気分

2）前田（1993：9–10）によると，形容詞と動詞の語構成が関連するものとして，動詞から形容詞が派生した（例：はづ→はづかし，くゆ→くやし）数の方が，形容詞から

動詞に派生したもの（例：かなし→かなしむ，たのし→たのしむ）より多い。

3）しかし，「のだ」や，「ようだ」，「そうだ」などを加えたり，過去形にすれば，自然な文になる。この点については大曽（2001）が詳しく論じている。

4）これは，「喜ぶ」が，『～ニ』タイプに近い性質があるために受動態が可能であるのかもしれない。例えば次の文で，筆者には「ヲ」だけでなく「ニ」も可能であると思われる。

「日本中の人々が，荒井静香の金メダル　ヲ／ニ　喜んだ。」

5）反意語は，‘sad’と‘unhappy’である。また，名詞‘happiness’の説明は，次の通りである。

幸福：

happiness：喜びと満足の状態（一般的な語）：

“Money does not bring happiness.”「金は幸福をもたらさない」

felicity：大きな幸福（格式ばった語）：‘enjoy felicity’「大きな幸福を味わう」

beatitude：至高の幸福：‘a sense of deep beatitude’「深い至福感」

bliss：幸福・喜悦が頂点に達した感情：‘the bliss of health’「健康の幸せ」

blessedness：特に，神の大きな恵みを受けている感情：

‘single blessedness’「独身のありがたさ」

6）Wierzbicka（1992：119）を参照のこと。

7）Wierzbicka（1998）を参照のこと。

8）詳しくは，Wierzbicka（1999：34–8）を参照のこと。

9）この特性は，日本語にも当てはまるようである。西尾（1993：22）は次のように述べている：「…楽しい，快い感情よりも，悲観的な，不快の側の感情を表す語の方が，古典作品の多くや，現代の語彙においても優勢を占めるようである。それは日本語に特徴的なことなのか否か，興味がもたれる。」

10）本稿では，擬態語の感情表現は扱わなかった。擬音・擬態語は，日本語に特有のものであるが，当然擬態語での感情表現も少なからず存在する（Hasada（1998））。日本語の中で，擬態語での表現とそうでない表現との間にどのような差があるのか（例：「彼女，今日るんるんだったよ。」と「彼女，今日うれしそうだったよ。」の違い），また，それらの違いを英語でいかに表現するか等多くの課題も残されている。

参考文献

阪倉篤義　1983.『日本語の語源』講談社現代新書.

大曽美恵子　2001.「感情を表す動詞・形容詞に関する一考察」『言語文化論集』（名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科）22．2：21-30.

菊地康人　2000.「タノシイとウレシイ」『日本語：意味と文法の風景』（国広哲弥教授古稀記念論文集）ひつじ書房，143-159.

国立国語研究所（編）2004.『分類語彙表―増補改訂版』（国立国語研究所資料集14）大日本図書.

柴田武他　1976-82.『ことばの意味１～３』 平凡社.

寺村秀夫　1982.『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』 くろしお出版.

西尾寅弥　1993.「喜び・楽しみのことば」『日本語学』12：14-22.

藤田佐和子　1991「［たのしい］と［うれしい］―誘因と感情の時間的関係を視点として―」『金沢大学国語国文』16.

前田富よし基　1993.「日本語の感情を表すことば」『日本語学』12：4-13.

山口仲美　1982.「感覚・感情語彙の歴史」『講座日本語学４：語彙史』明治書院，202-227.

山田　進　1982（1992[8]）.「ウレシイ・タノシイ」國廣哲弥（編）『ことばの意味３―辞書にかいてないこと』平凡社，112-120.

Athanasiadou and Tabakowska (eds.), *Speaking of Emotions*: *Conceptualisation and Expression* (*Cognitive Linguistics Research*: 10), Mouton de Gruyter.

Hasada, Rie. 1998. "Sound symbolic emotions words in Japanese." In Athanasiadou and Tabakowska (eds.), 83-98.

Wierzbicka, Anna. 1992. *Semantics, Culture, and Cognition*: *Universal Human Concepts in Culture-Specific Configurations*. New York/Oxford: Oxford University Press.

Wierzbicka, Anna. 1998. "Sadness" and "Anger" in Russian: the non-universality of the so-called "basic human emotions," in Athanasiadou and Tabakouska, pp. 3-28.

Wierzbicka, Anna. 1999. *Emotions across Languages and Cultures*: *Diversity and Universals*. New York/Oxford: Oxford University Press.

辞典：

『感情表現辞典』 中村明（編） 1993.　東京堂出版.

『基礎日本語辞典』 森田良行　1989.　角川書店.

『研究社新英和大辞典』 第６版　竹林滋（編） 2002.　研究社.

『研究社新和英大辞典』 第５版　渡邉敏郎他（編） 2003.　研究社.

『ジーニアス英和大辞典』 小西友七　他（編） 2001.　大修館.
『類語大辞典』 柴田武，山田進（編） 2002.　講談社.
『分類語彙表―増補改訂版』（国立国語研究所資料集14） 国立国語研究所（編） 1964 (2004).